



総合教育センターだより

BE Connected



センターマスコット センタ君

平成26年1月16日(木)
第58号(通算第141号)
京都府総合教育センター
TEL: 075-612-3266

講座報告

2年目教員ステップアップ研修



2年目教員「ステップアップ3」講座 —初任期育成研修の2年目として—

12月26日(木)、27日(金)
総合教育センター

今年度、2年目教員(各校種の2年目の教諭 合計約470名)は、夏季休業中2回と今回を加えた計3回の「ステップアップ」講座を受講しました。勤務校では「テーマ研修」にも取り組みました。そして「初任期育成研修」最初の修了生となりました。2年間のこの研修を経て、今後、更なる前進をしてくれるものと期待しています。

最終回となる今回の講座では、4月以降各自がテーマ設定し取り組んできた「テーマ研修」の実践発表の後、「これからの時代に求められる教師力」をテーマに人材育成支援室アドバイザーと受講者の代表によるパネルディスカッションを行いました。それぞれの受講者は2年間の振り返りながら、『今後どのような教員をめざすのか』について考えることができました。

「テーマ研修」に御支援、御協力をいただいた各学校の校長、副校長・教頭をはじめ多くの先生方に、心からお礼を申し上げます。



感想

分からないことが多かった1年目に比べて、2年目になるこの1年間は様々なことにチャレンジできました。今後、自分の苦手なことにも積極的に努力を重ね、一つ一つ階段を上っていきたいと思います。パネルディスカッションで取り上げられた「子どもとともに成長する」という気持ちをいつまでも持ち続けていきたいです。

特別支援教育<発展>サテライト「キャリア教育」講座 -すべての子どもの自立と社会参加を考える-

12月6日(金) 宇治支援学校(SSC)
東洋英和女学院大学 石渡 和実 教授



キャリア教育の観点から、障害のあるすべての子どもの自立と社会参加を見通した指導や支援の在り方について学びました。

感想

自立とは、「自分の持っている力を100%発揮し、他から受ける支援を最小にした状態」という定義はわかりやすく、人にも伝えやすいと感じた。キャリア教育については「勤労観」「職業観」という言葉にとらわれがちだが、児童生徒が主体的に取り組み、満足感や達成感を得られる授業はキャリア発達を促す授業であるという視点を大切にしたい。

副校長・教頭・事務長講座

12月2日(月) 総合教育センター

仙台市教育局学校教育部 主幹 佐藤 淳一 氏

京都少年鑑別所 法務技官・精神科医 定本 ゆきこ 氏

佐藤先生には東日本大震災当時、校長として学校の再建に携わられた経験から、また、定本先生には問題行動の見られる児童生徒への対応の視点から、学校に共通した今日的課題の対応について示唆をいただきました。



感想

地域の協力なしには魅力的で特色のある学校づくりはできないということを痛感しました。高校として、小中との連携だけでなく地域連携を強化することが今後の課題だと感じました。

思春期の子どもたちについて分かっていたつもりでしたが、改めて大人の都合で「子ども扱い」や「大人扱い」をしていたのではないかと思います。



平成25年度手作り府民講座 ワクワクおもしろ学び教室



12月21日（土） 総合教育センター

総合教育センターでは、小学生（と保護者）を対象とした公開講座、「ワクワクおもしろ学び教室」を開催しました。この催しは体験を通して学びと気づきを深め、児童の知的好奇心をかき立てることをねらいとして昨年度から実施しています。保護者等を含め259名の参加があり、好評を得ることができました。また、今回も府立京都すばる高等学校を中心とする50名以上の府立高校生が運営スタッフとして協力、活躍してくれました。



まゆまろとセンタクンがお出迎え



府立北嵯峨高等学校書道部による、みごとな書道パフォーマンス



えいごであそぼう！
Let's enjoy English!



ねんてん先生（佛教大学坪内稔典教授）
による親子俳句教室



府立嵯峨野高等学校サイエンス部による「砂から見つける微小貝」



火起こしに挑戦



府立図書館による
手作りしおりづくり



数や形で遊ぼう！
図形パズルに挑戦

これは使える！

～センター作成物等紹介～

小学校「楽しい授業のひと工夫」

小学校の音楽科、図画工作科、体育科、家庭科の授業について、「授業を工夫したい」「楽しい題材を見付けたい」、そんな先生方の声にお応えします。

実技4教科の具体的な指導方法を写真や動画で紹介します。

センター
HP・京育ナビ
からダウンロード
ロードできま
す。



お薦めの一冊

「反省させると犯罪者になります」

岡本茂樹 著 新潮新書 刊

中高での教員経験もあり、長年、受刑者の更生支援に当たってきた著者のことばである。「エッ！反省は良くないの？」と題名にドキッ！とする。子どもが起こした様々な問題事象の指導で当たり前前に反省をさせてきたなあ振り返る。



反省文とつけはなぜダメなのか？
現場から生み出された「本当に効果的な更生メソッド」
新潮新書 新刊

「反省させる以前に大切なことがあるのです。」と実践的に解き明かされる。読んで納得し、それこそ「反省する」か、批判するか…いずれにしても、日々の指導としつけ等、立ち止まって考え直す機会になり、子どもに向き合う今後の指導に生かせるのではないだろうか。(T.K)